

# RPJ News

2022年 4月号

特定非営利活動法人(NPO法人)

精神保健福祉交流促進協会 Refresh Project

〒130-0001 東京都墨田区吾妻橋2-17-7-801

毎月1回発行 E-mail ref-pj@mx5.ttcn.ne.jp

発行責任者：志井田美幸/ 長野敏宏/ 仁木守

連絡先 070-8438-0688

ホームページ <http://www2.ttcn.ne.jp/ref-pj/>

## 内 容

### \* 第1回 Web セミナー「仕事づくり」

○ Web セミナー開始にあたって

理事長 長野 敏宏

1. 働くことでつながっていく

つがるねっと 貴田岡 武

### \* 2019年イタリア地域精神保健研修報告 第17回

4 ヴェネト州ヴェローナでの研修

4-2 ヴェローナにおける精神保健(3)

### \* 事務局からのお知らせ

### \* 第1回 Web セミナー「仕事づくり」

○ Web セミナー開始にあたって

理事長 長野 敏宏

交流促進協会の活動再開ということで、第1回 Web セミナーということになります。お忙しいなか多くの皆様にお集まりいただき有り難うございます。今回、協会関係者の皆様が軸の1つとして取り組んでおられる「仕事づくり」、いわゆる就労だけではなく、色々な意味を持って歴史の中で長い間やってこられてきた様子が伝わってきています。私もそこから学ぶことが沢山ありますが、暫くこの観点での情報共有が出来ていなかったと思っています。それで今回、是非このテーマを取り上げたいと思いました。

20年程前に谷中さんが立ち上げられる時には、未だ自立支援法が出来ていない精神保健福祉法は僅かにバックアップがあるだけで、皆さんが全国で孤軍奮闘されていて、その仲間が集まって、日本の精神保健を良くしよう、バーンアウトを無くそう、と言って始まりました。その頃は制度が細分化されていなかったので、皆の興味・関心は比較的近い位置にありましたが、自立支援法が出来て更に総合支援法になり、どんどん制度に分断されるような形になり、縦割りというか興味・関心も縦割りになり、逆に共通の話題が減るということが起こりました。また精神だけではない世界がどんどん起こってきたので、協会の活動としてイタリアなど海外セミナーでは纏まっていけるのですが、国内の活動では皆が集まって「懐かしいね」というのが精一杯で、それが現状なのだと思います。

ただ多様な話題を沢山持ち、制度をどの様にするかとは根底から違い、比較的自由的な立場を持っているところに私たち協会の強みは有ると思っています。

そこで「仕事づくり」のところでも、結論を急ぐのではなく、夫々が思っている事を思っている様に行いながら、10年後 20年後の気付きに繋がればと思っておりますので、皆さんご自由にお話し頂ければと思います。

本当に再会できて嬉しく思います。それでは皆さん宜しくお願いします。



# 1. 働くことでつながっていく

つがるねっと 貴田岡 武

青森県弘前市で就労支援を行っています「つがるねっと」の貴田岡と申します。

仕事を作るというふうな話ではあるのですが、そんなにたいしたことはしゃべれなくて、今やっていることやちょっと取り組んでいることを、まとめてお話をと思っていますのでよろしくお願ひします。

先ず資料が2021年となっていますが、2022年4月の間違いです、宜しくお願いします。

私のいる青森県弘前市は、青森県の西部に位置する市で弘前藩の城下町ということで発展してきたところです。今人口が大体16万4000人位なのですが、4年前位から考えると8000人位減ってきているというところ。それから高齢化率も32%で、それなりに高齢化も進んできています。その中で精神科病院が4つ、大きい病院が3つと大学病院が有ります。その他にクリニックもあり、このような感じで就労支援のところも色々全部で40位あります。弘前市は周辺に多くの市町村があり、それらの医療も担ってきたことから病院の数が多かったということもあります。今すぐ弘前市は桜が綺麗な時期で、弘前城弘前公園は見所があるのでもし機会があったら遊びに来てくれるといいなと思います。

自己紹介です。青森県弘前市生まれの貴田岡武、49歳です。元々は病院で16年位、作業療法士として働いていました。その後ちょっと病院に疲れまして社会福祉法人で生活訓練施設勤務を3年位経験しました。その後法人を立ち上げて今就労支援をやっています。

就労支援の立ち上げなのですが、2017年の9月に「株式会社つがるねっと」ということで立ち上げました。キーワードは「だれもがごく当たり前の生活ができる町作り」、そのための仕事と言うことを考えてやりはじめました。A型の方は定員 20名ですが今現在登録者は7名です。B型は10名ですが逆にB型の方は10名以上来ています。

スタッフの構成はこの様になっています。ちょっと変わっているのは、私を含めてOTが2名いるということです。社会福祉士1名、薬剤師もいるという感じでちょっと変わった構成になっています。

我々のA型とB型の作業内容はこの様に分かれています。我々の会社はちょっと変わったところに入っていて、4階建てのビルなのですが、1・2・3階が違う会社でグループホームをやっている、そこのグループホームの清掃業や、ホームの利用者さんの食事提供として朝ご飯とか作って提供させてもらったりもしています。その他に A型は内職の作業や農福連携、今週の月曜日からちょうど始まったのですがホテルの清掃業もやらせてもらっています。

2021年4月20日  
精神保健福祉交流促進協会Webセミナー  
**働くことでつながっていく**  
青森県弘前市 株式会社つがるねっと  
就労継続支援A型 はたらき方研究所りんごの種  
就労継続支援B型 つながり芸術館バナナの樹  
代表 貴田岡 武

**青森県弘前市**

- 弘前市
- 青森県の西部に位置する市
- 弘前藩の城下町として発展してきた
- 人口 164487人 (2022年4月18日時点)
- 2018年 172550人 4年で8000人以上の減
- 高齢化率 32% (2020年)
- 精神科病院 4病院
- 精神科クリニック 6施設
- 就労継続支援A型 15以上
- 就労継続支援B型 25以上

**自己紹介**

- 貴田岡武 生まれも育ちも青森県弘前市  
49歳 男性 既婚 娘2人
- 作業療法士 調理師 WRAPファシリテーター
- 精神科病院を16年勤務(入院・外来作業療法 デイケア・デイナイトケア)
- 社会福祉法人 共生会 生活訓練施設勤務3年勤務
- 津軽地域精神障がい者社会復帰支援連絡会 代表・事務局
- 株式会社つがるねっと代表取締役
- 趣味:ウクレレ・散歩・温泉・漫画

**就労継続支援施設の立ち上げ**

- 2017年9月に「株式会社つがるねっと」立ち上げ  
Keyword: だれもがごく当たり前の生活ができる町作り
- 就労継続支援A型 定員20名  
はたらき方研究所りんごの種
- 就労継続支援B型 定員10名  
つながり芸術館バナナの樹

**つがるねっとのスタッフ構成**

- スタッフ
  - サービス管理責任者
  - 職業指導員
  - 生活支援員
  - 目標工賃達成指導員(8名)
- OT2名 社会福祉士1名  
薬剤師1名 教員1名 ピアスタッフ1名  
他2名

**つがるねっとのA型・B型作業内容**

- A型りんごの種
  - グループホームの清掃業
  - グループホーム利用者の食事提供
  - 内職作業
  - 農福連携作業
  - ホテルの清掃業
- B型バナナの樹
  - コーヒー作業
  - 伝統工芸作業
  - 外部作業(喫茶・清掃)
  - 農福連携作業
  - ハグワーク

B型の方は主にコーヒー作業をメインとして他には伝統工芸にちょっと携わっていたり、外部作業をやったり、B型も福連連携の作業をやっています。弘前市のB型の集まりでハグワークというのをやっているのですが、それに参加しています。

先ず我々の仕事は、話すこと・考えること・動くことはセットだと思っています。B型の担当作業療法士のもと、朝と昼のミーティングは利用者と皆で集まって話をしています。本当に本人たちの人となりとも色々ありますので、役割分担をどこで本人たち個々のストレングスを意識して話し合いをしたりしています。その中で自分の役割とか居場所とか自主性をみんなで考えていければと思っていました。話し合ったことを仕事でどのようにつながって行ったらいいか、動いているかを実践しています。本当に働くということだけではなく、その中で仲間とかその繋がりで働くかも考えているつもりです。

就労継続支援A型の方の仕事は、この様な感じになっています。大きく分ければ施設外と施設内の作業になっています。

施設外の作業としては、清掃業で1階2階3階の共有部分と共有スペース、お風呂等をA型の利用者さんが掃除をしています。あとはホテル作業、浴室、ユニットバスやトイレも入っていますが、その清掃やタオルをたたむということを今週の月曜日からやらせてもらっています。後は農福連携作業で、青森県は基本りんごを作っているところが多くそこに関わる作業をやっています。あと施設内の作業はグループホームの晩ご飯と朝ご飯も請け負っています。後は内職として、横浜の崎陽軒のシューマイ弁当の蓋の加工をやらせてもらっています。基本利用者さんに合わせた作業をお願いしていますが、今は利用者さんが7名いるのですが、どの作業も皆が出来るようになり段々慣れてきたなという感じです。

次はB型の方ですが、B型の方はメインとしてコーヒー作業をやっています。1つはうちのメインのブランドである津軽お化け珈琲です。もう1つは弘前ねぶた珈琲です。弘前には扇形の「ねぶた」というのがあって、その名前を付けたコーヒーを作っています。最後はオリジナルのイラスト珈琲をやらせてもらっています。

コーヒー作業はこの様な感じで色々別れていて、一つのコーヒー豆から選別・粉碎してドリップコーヒー用の袋詰め、他の利用者さんが印刷をして、全部それをチームで行っています。作業を分散して、その人に合う作業をその都度何を担当するか話し合っています。後は出来た物を利用者さんと一緒に配達に行きます。地域に出て行くことでの繋がりと、お店の方々にも色々この様にやっているよということで、お互いが理解してもらえるような形でやっています。実はお化け珈琲のイラスト作家さんに障がいのある方でいて、青森県弘前市の津軽地方のことを紹介しているということで、我々のことをマスコミなどで色々取り上げてもらったりしています。

コーヒー作業の工程ですが、本当に豆を選別するところから始めます。色々な作業は出来ないが、このコーヒー豆の選別なら上手いという人がいますので、そういう得意な人に使える豆使えない豆を分けてもらっています。次はミルで砕いて重さを量りながら袋詰めをし、シーラーで閉じています。印刷した外袋の裏に日付を書く人もいて、最終的にドリップコーヒーになります。弘前というか



#### 話×考×動

- ・朝・昼とミーティングを行います。
- ・役割分担では個々のストレングスを意識して話し合います。
- ・集団の中で自分の役割や居場所や自主性を考えます。
- ・話し合った事を仕事でどのようにつながったらいいか、動いているかを実践します。
- ・自分と仲間を働く場で感じます。

#### 就労継続支援A型:りんごの種の仕事

- ・施設外作業  
グループホーム清掃(階段・共有スペース・喫煙室・風呂)  
ホテル作業(ユニットバス・トイレの清掃、部屋の掃除機、タオルたたみ)  
農福連携作業(りんご作りに関わる作業)
  - ・施設内作業  
調理作業(グループホームの昼食、晩御飯の調理)
  - ・内職作業(崎陽軒のシューマイ弁当の蓋の加工)
- 基本、利用者に合わせて作業を行います。A型の利用者7名ほどの作業もできるようにしました。



#### A型 りんごの種

- ・グループホームの清掃業
- ・調理作業
- ・内職作業
- ・りんご作業 等

#### B型 バナナの樹

#### ・コーヒー作業 コーヒーを通じて地域 とつながる

- ・津軽お化け珈琲  
オリジナルブランド
- ・弘前ねぶた珈琲  
伝統文化のねぶたの着せ替え  
肩支度
- ・オリジナルイラスト珈琲  
ジョイントさんと職人注文対応

- ・コーヒー豆の選別・粉碎・袋詰め・印刷などをすべて行う
- ・作業を分散してその人に合う作業をやってもらう
- ・お店にスタッフと一緒に配達に行き交流を図る
- ・津軽お化け珈琲はイラスト作家が障がい者で地域紹介もしている。



#### コーヒー制作工程

津軽地方にお化けが出たらこんな感じというのもありますし、お化けそのもの、弘前が城下町というのもあるので、お化けそのものはやはり出るよという風な場所もあったりして、その様なことをイラストにして書かせてもらい、今では60種類位になりました。

コーヒーをやっている中で、我々の強みはコーヒー作るということですが、他のところの強みとコラボ出来ないか、と考えていました。その中でダウン症の家族の会のお子さんが「この様な絵を描いたのだけど」と持ってきてくれたり、養護学校の生徒さんが「この絵で父の日のプレゼントを作りたい」と持ってきてくれたり、そこで絵を受け取って一緒に印刷し、コーヒーにすることをやっています。また東京で若年認知症の就労支援をしているジョイントさんと若年認知症の方の作品が文章になったり絵になったりしていました。そこからイラスト珈琲の注文をいただきました。これはお互いの強みをコラボすることが出来た実例です。彼らは絵がコーヒーになったことが気に入って、それを色々な人を買ってもらうことで自分の作品を多くの人に見てもらえることが出来ます。我々はコーヒーが売れることで、ウイン・ウインというかハッピー・ハッピーというか、そんな感じに繋がっています。



後は伝統工芸とアートと福祉と言うか、先ほどいいました、これが弘前ねふた珈琲になるのですが、「ねふた」には若手絵師さんと言われる次の世代を担う絵師さんがいます。未だ「ねふた」には出せないのですが、何処かで見てもらいたいという気持ちがありますので、若手絵師さんに描いていただいた絵を使い、弘前市には町おこしの方々のアート集団「おらんど」さんがいますので、このアート集団の方にパッケージデザインをお願いしました。



するとこの様な綺麗なパッケージを作ってくれました。絵は「ねふた」の若手絵師さんがやってくれ、パッケージデザインは「おらんど」がやってくれて、我々がコーヒーを作るということで、コーヒー1つで地域の色々な方と繋がることが出来ています。このコーヒーは150円で販売していますが、1つ売れたら若手絵師さんに30円バックするというように、福祉の方から町の色々なことに支援するという様なことも出来ています。

次も伝統工芸が続きます。青森県には津軽塗という変わった塗り物があります。その津軽塗の職人さんの所に行って見せただくと、全部の工程は多くて1つの作品が出来するのに2か月位かかります。その中でも研ぐ作業が3工程位あります。そこで研ぐ作業を我々のB型のところでやらせていただき、オリジナルの作品を作らせていただきました。箸置きや鉛筆立て、電気のスウィッチカバーやコーヒーのマドラー、アイスのヘラをやっています。この様な感じで色々新しいものを作って 伝統工芸とも繋がらせていただいています。



後は「B型の作業も外に出てやりたいよね」という話をしていたので、近隣から頼まれていた掃除作業を週1回やりに行ったり、喫茶店の皿洗いは週1回、利用者2名とスタッフ1名位で行ったりして、その様な形で繋がらせてもらっています。



農福連携は今色々な形で進んできていると思いますが、青森県も農家の方が多く、農福連携をやりませんかとお話を受けて、弘前市の福祉課ではなく農政課のモデル事業で行っている農福連携事業で「りんご」の請負をやらせていただいています。



それから弘前市役所内で就労継続支援B型のアンテナショッ

ブで「ハグワーク」というのが有りますが、そこに2021年から農福連携共同受注窓口を設置しています。そしてその業務局を我々がやらせていただいていますので、農福連携というなかで福祉の人とのつながりや農業の人ともつながりを持って仕事をしながら、という風にやらせてもらっています。

「りんご」の工程を示しますが、本当に実がなり収穫するまでには多くの工程があります。先ず4月初めには、枝集めから始まって1か所に集めて燃やすことから始めます。そして花が終わって実を摘んで袋掛けまでやります。初めてやる方は市役所からモデルの木を借りてきて袋詰めの練習をします。本物での練習はりんご公園で行います。そして実際の場面での袋掛けです。そうこうしているうちに9月になると収穫が始まり、障がい者も梯子に登って収穫します。「りんご」に色付けするため反射シートを付けたりもします。大体9月から11月末位までですが、大体この様な感じで「りんご」の収穫に行きます。段々寒くなりますが、外は気持ちが良いので収穫作業をします。その後、「りんご」の大きさとか形とか傷がついていないか等の選別作業をします。大体その頃は11月末位になるので雪が降ったりして寒いです。この時期位迄作業をやっていきます。



次は仕事と直接関係あるか？と言われると難しいですが、長い目で見たとき事業の継続、次の世代をどの様にして育てるか、ということは何処の事業所でも課題だと思います。その中でどの様にして次の世代と繋がるかということで、学生さんが実習に来てくれたり、我々が講義に行ったり、とかで弘前大学などのOT専攻の方々や社会福祉の方々、看護学部の方々と一緒にやらせてもらっています。

後は仕事をしていく中で自分たちの情報発信として、「この様なことをやっていますよ」ということを、今SNSを使ってやらせてもらっています。フェイスブックの中では3つほどやらせてもらっていますし、インスタグラムもやっていますし、ユーチューブも少しずつ始めました。楽天ではコーヒーの販売も始めましたので、もし宜しければ見に来てください。

**教育×福祉**  
次世代育成は長い目で見た事業の継続

**実習・講義**

- ・弘前大学 作業療法士専攻
- ・弘前医療福祉大学 作業療法専攻
- ・弘前学院大学 社会福祉学部
- ・弘前学院大学 看護学部 など

**福祉×情報発信**

- ・人権や障害者などに配慮しながらSNSなどで情報を発信していく。
- ・ Facebook: つがるねっと
- ・ 津軽お化け珈琲
- ・ ハグワーク
- ・ Instagram: ringo to banana
- ・ YouTube: つがるねっと
- ・ 楽天: バナナの樹



あります。A型をやめてB型になりましたというところがありました。20年くらいの実績がある大きな事業所でも経営困難になっているという相談を我々も受けています。そこで立て直すためこちらからの新たなスタッフを配置して、何とか立て直しをしようということで動いています。またその経営者さんは70歳を超えていて後継ぎがないということで、1年後を目指してその事業所を引き継ぐという案件として今進んでいます。そのなかでよく考えるのは、本当に時代の流れは速くなっており今日もスタッフと話していましたが、「25年前はポケベル有ったよね」とか、「次はPHSだったよね」とか、「ガラケーになってスマホだよね」、「スマホになって10年位しかたっていないのに、ガラッと変わったよね」と話をしていたり、テレビもネットTVがあったり、買い物も楽天やAmazonなどで、10年前には全然考えなかったのですが、色々なことが変わってきたなと感じていて、その実績からこの先の10年も凄く変わるのだろうと思っています。本当にどの様にして生き残るかということが凄く難しいです。時代の柔軟性にどの様に対応できるか、どこまで合わせられるか、ということが大きなカギになると考えています。

#### 次のステップに向けて

- ・町に溶け込むから地域振興へ  
活動範囲を広げていき福祉を生活全般に(グループホームなど生活の場の提供、喫茶作業、農福連携、高齢者対策など町の課題に)福祉の立場でつながっていき共生に向かっていける。
- ・もっと幅広い職域の人とつながっていく  
幅広い会社や団体との連携をすることで、障がいや福祉の理解を促し、その中で町の人にとって使いやすい福祉の提供ができる。
- ・他福祉事業所との連携を強化  
今現在、私は他の事業所の協議員と理事をしています。また駅前中心の就労継続支援の団体「ハグワーク」があります。働く場や生活の場が安定すると利用者の自立が安定する。

最後に変革の時期ですが、なんだかんだ言って大変だけど面白い、そして今やっている事も楽しい。「共に生きる」「地域で生き活きと暮らす」ということを考えていかななくてはいけませんし、他の分野とも繋がっていかなくてはいけない。利用者さんを支援するとか、されるという垣根を段々無くしていかなくてはいけない。結局皆がやれることを増やしていくということと、利用者さんもスタッフも人間として、「人が最大の資源だよね」ということです。そして次世代に繋げていければ、ということで考えていますし、その様にしていけば自分が生きている間は大きく変わらないかもしれませんが、次につながっていくのだと思います。

#### 変革の時期 たいへんだけども面白!

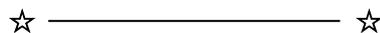
- ・共に生きる 地域で活き活き暮らす
  - ・他の分野(障がい・教育・高齢者・商業等)との繋がり
  - ・支援する・されるから垣根をなくす
  - ・人が最大の資源ではないか!!!
  - ・次世代に繋げていく...共に行う町作り(自分が障がい者になったときに安心して生活できる町)
- 楽しく人や活動を巻き込んで生きたい...私は役立たずを目指す

この先の目標としては「あとは貴方がいなくても1人で何とかできます」となってくれば嬉しいです。

「私は役立たず」を目指していければ良いな、と思っています。

仕事そのものは、色々なものを作ったり、変化に対応したりしてやっていかなくてはいけないと思いますが、今の部分を大切にしながら、先を見てやっていかなくてはいけないと思っています。

以上です。有り難うございました。



## \* 2019年イタリア地域精神保健研修報告 第17回

### 4 ヴェネト州ヴェローナでの研修

#### 4-2 ヴェローナにおける精神保健(3)

Q)行政からの補助金が削減されてきて、これからも回復が見込めないと考えた場合、今後の方向性はどの様に考えられるのでしょうか?

A)私は年金生活に入ってしまうんですけど、私が確信していることは昔の精神病院を中心としたシステムには戻らないという事です。国民の意識の中にある精神保健は十分に変化しているので元に戻ることはありません。しかし排他的な考えがヨーロッパで高まっていてイタリアでもその傾向がありますので、その傾向は心配ですが戻ることは無いでしょう。

Q)キャッチメントエリアで人口減少があった場合、今のシステムに変化はあるのでしょうか?

A)セルフヘルプの考え方が1つのキーワードになると考えられます。これを充実することで各医療従事者の仕事をある意味で単純にしていくという事が考えられるからです。患者が自立した形でお互い患者同士が助け合っていくというセルフヘルプを重視することで、キャッチメントエリアを大きくしてテクノロジーを駆使し人員削減を図りマイナスの方向に向かうことに対処していくことになるでしょう。

Q)コーペラティーバが活動の範囲を広げていく方向性は如何でしょうか？

A)コーペラティーバが急速に発展したため、1つの事業として発展し強力な組織になってしまいました。そのため地域にあるコーペラティーバは仕事を失いたくないという意識が生まれ、住居やベッド数を減らしたくないという組織を守る方向になってしまいました。これもまた大きな問題なのです。ヴェローナのコーペラティーバは流動的な活動をしてくれるのですが、他の地域では限定的な仕事に特化しているようなことも見受けられます。公的な部分の精神医療が第3セクターのコーペラティーバにあまりにも依存してしまった、しかしコーペラティーバの中には十分に訓練を受けていない人たちもいて、その人たちが精神医療の中に入ってきてしまったため非常に大きな問題になってきています。

Q)セルフヘルプはこれからどんどん普及するのでしょうか？

A)セルフヘルプの問題点として、患者の症状や環境を医療従事者でない相手に話をすることを患者の家族は大変嫌がります。そのため大きく普及することは難しいでしょう。

Q)病院が無くなり病床が減っていくことに対する国民の満足度というような調査はあるのでしょうか？

A)家族会としては非常に満足していて、行政と非常に連携して動いています。しかし非常に危険なのは家族が精神科医と連携していることで、アメリカ等では新しい薬物を使った医療方法を家族が推奨している事例があります。この様な意味での家族と医療従事者の接近事例は悪弊といえます。家族が医療に関与するという事は、どの方向に行くかという事で善し悪しが割れることが考えられます。その点イタリアの家族会は非常に成熟していて、社会環境の中で見守る体制ができていていると感じています。今家族会は国に人員やお金をより多く回すように働きかけています。

World Health Organization  
**Rehabilitation and habilitation**

- Rehabilitation and habilitation
  - are instrumental
  - in enabling
    - people with limitations in functioning
      - to remain in
      - or return to
        - » their home,
        - » or community,
      - live independently, and
      - participate in education,
      - the labour market and
      - civic life.

“リハビリテーション”とは元の状態に回復する働きかけのことを言います。それに対して”ハビリテーション”とはもともと持っている力や持ち味を生かしてさらに発達させる働きかけのことを言います。明確な目的を定めて、安心できる場を作り、様々なことに自ら挑戦できるように、作業療法士によるハビリテーションを行います。心とからだを元気にするために1人ひとりの方に合わせてサポートしていきます。今とこれからの生活を豊かにするために、生活の中で「してみたい」「出来るようになりたい」ことを実現するためにはどうすれば良いかを共に考え、達成するためのお手伝いをします。

UN Convention on the Rights of Persons with Disabilities (CRPD)

Approvata 13 dicembre 2006, firmata 30 marzo 2007: la **Dichiarazione universale dei diritti dei disabili**. Sono dovuti passare 230 anni dalla prima dichiarazione dei diritti umani nel preambolo alla dichiarazione d'indipendenza degli stati uniti d'America (1776).

私はリハビリテーションについて学んできました。患者の持つ人生・権利についてですが、アメリカとフランスが人権宣言をした内容が今の我々の生活の基礎となっています。そして「障害のある人が同じように権利を持つ(CRPD:障がい者の権利に関する国際条例)」という事を国連が認めるまで230年必要でした。

CRPD パラダイムシフトは基本的なものです。障害のある人を、法廷能力のはく奪や強制治療、強制入院させることは出来ないという基本的人権を擁護するという立場になる。そして障がい者に様々な支援的措置がされるわけですが、その支援を決めるのも障がい者自身なのです。

• Compulsory medical treatment and disability based detention or institutionalization amount to a limitation of legal capacity...

• **The CRPD paradigm shift in these areas is fundamental. It means that persons with disabilities can no longer be subject to legal standards or procedures for deprivation of legal capacity, compulsory treatment or forced institutionalization or hospitalization. Instead, such practices must be abolished and replaced with supportive measures that respect the autonomy and integrity of persons with disabilities.**

またCRPDは障がい者がコミュニティでどの様な形で生活するかという事に対して、能力や適格や資格など条件を付けるのはおかしいのではないかと、時には支援が必要になるかもしれないが自立して生活しコミュニティに自由に参加できるべきとしている。自由に動き何を食べて誰と住んで時間を過ごすか、どこで働くかは全て個人が決めるべきことだと言っています。

2006年にこの憲章は作られました、今まで誰も気にしませんでした。この憲章では強制入院や拘束・強制治療を否定する文章になっており、多くの人が最近気付きびっくりしました。そして2019年2月に有名な精神科医が反対意見を出しました。そのためこれから大議論に発展することになるでしょう。

※記載内容の訳

- CRPD プロジェクト全体の意思と好み P.Bartlett
- 意思と選択の尊重を支持する能力評価の拒絶：障がい者の権利に関する国連憲章の根本的な約束 E.Flynn
- 国連憲章：サービスユーザーの視点 C.Sunkel

まさに精神疾患があるために差別することは国連の定めている人権問題に抵触するものです。いま精神科医たちが国連憲章に反対意見を出していますが、これは考えられないことです。問題はこの論文が今後どのような方向に行くか判りませんが、精神疾患はどうなっていくのか患者の人権は守られるのか等が著名精神科医たちの間で交わされる議論に注意していかなくてはならないと感じています。そしてこの議論を通して国民の間に精神障がい者の人権問題が浸透していくものと思われま。

精神疾患というものは他の病気と同じように治療されるものであり、治療されるべきである。だから精神医学が精神疾患を生み出しているという事を考えなくてはなりません。

Q)意見を言われている精神科医とはどのような方々なのでしょうか？

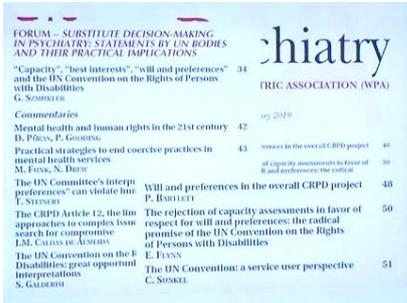
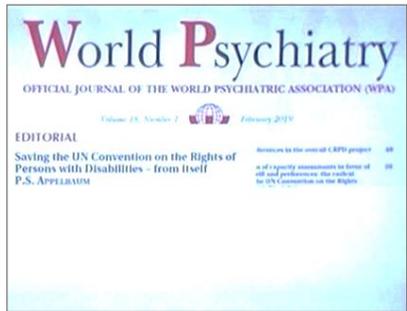
A)古いタイプの精神科医たちで著名な精神科医といわれていますが、旧態依然の考え方で患者を直接見ないで診断をするようなタイプ、病気を診て個人を診ない医師たちです。現在は患者の様々な環境も配慮して患者を診る風潮が来ていますが、この考えを拒否している方々です。

精神疾患は患者の環境を含め様々な対話を続け、その中で解決策を見出していくことが重要です。決して関係を閉ざしては解決策を見出すことはできません。

精神科医や医療従事者側からすると、患者を先ずこちらの環境の中に招き入れる。そして患者に社会的にどの様な地位を与えるかです。そうする事によって社会の認知度が変わります。逆にゴミの様な扱いをすれば社会から弾かれてしまいます。ですから治療する側が患者の地位を向上させる事が必要なのです。そして人権の問題ですが、精神障がい者も一般の人と同じ権利を持っているのです。法的には障がい者にはならないのです。

実話をもとにした映画 SI PUO FARE (和題「人生、ここにあり！」)の中の話ですが、精神障がい者が集まってコーペラティブを作ろうという話になります。すると1人の患者が「先生に相談して決めよう」と言います。この患者は、自分たちは精神科医の下で従属的な立場にあるということが染みついてしま

- The CRPD reaffirms that **living in the community is an inalienable right not subject to proving one's 'ability', 'eligibility' or 'entitlement'**. In some cases supports may be needed, and the issue then becomes **how to facilitate living independently and inclusion in the community.**
- The most basic rights, such as being given the choice to interact with the community, move freely, make choices about one's own life (such as what to eat, how to furnish one's room, with whom to live, with whom to spend time, where to work, how to spend leisure time) are impossible to uphold in an institutional setting.



す。しかしコーペラティーバを作ろうといったリーダーは言います「自分たちのコーペラティーバなのだから、ここにいる患者全員で投票しよう」「コーペラティーバの会員は医療従事者でも先生でもなく君たち自身なのだから」「だから君たちが決めなくては行けないのだ」この様にして患者主導のコーペラティーバが誕生していきます。そして患者はコーペラティーバの会員として一般社会の一員となり生活の主人公になり、自分で職業を決め自分で働く決断をします。この立場の変化により患者は一市民として別人として目に輝きが戻り生き生きとした生活を始めます。



私の言っていることは個人のイデオロギーに沿っている事と言えないことはありません。社会をどの様にみるか、世界をどの様にみるかという事は、個人の哲学的な選択であるのでどの様に感じるかは個々の問題です。何処に立場を決めるかという事で変わってくるでしょう。私は自分のイデオロギーを皆様に話しているに過ぎません。私のイデオロギーの基礎は科学ではなく個人の選択です。だから精神疾患は脳の病気ですが、脳の病気だということしか考えないと、思考の出発点が脳の病気になり、そこからの発展しか考えが広がらないのです。患者自身が病気だということしか考えないと病院しか思考は広がりません。ではなく自分は一般の人と同じ権利を持っていると考えると趣味を持ち暮らしていくことができ、病院とは全く違う選択肢が生まれてくるのです。

どの哲学が正しくて、どの哲学が間違っているかなどという事は言えません。現実の世界では様々な考え方があります。そしてそれらがミックスして世界が回っているのです。これ以上の事は言えませんが、私の考え方は今日の話でお判りいただけだと思います。

有り難うございました。

#### \* 事務局からのお知らせ

##### ◎ 第2回 Web セミナー開催に関して

日時 2022年6月15日(水) 19:00~21:00程度

ご参加に関しては、RPJNews5月号発行時にお知らせしますので、お待ちください。

##### ◎ 2022年度会費のお願い

協会は皆様からお預かりする会費で運営しております。本年度も是非協会運営にご協力ください。宜しくお願いします。

正会員年会費 10,000円、賛助会員会費 1口1,000円(3口以上希望)

振込先 ゆうちょ銀行 口座記号番号 00110-7-315159

口座名 NPO 法人精神保健福祉交流促進協会

※他の金融機関利用の場合:ゆうちょ銀行 0一九店 当座 口座番号 0315159



—編集後記— 今月号は久々の多ページになりました。振り返ると2019年の国内セミナーとイタリアの海外セミナーを最後にコロナ禍となり、長い冬眠状態になっていました。そしてウイズコロナの申し子の様なWebセミナーという形ですが活動が再開できましたこと、とても嬉しく思っています。その間ニュースの乏しいなか少しでも情報を届けられないかとの思いから、イタリアセミナーの文字起こしという形でセミナー報告を続けさせていただき、RPJNews発行を継続することが出来ました。そしてWebセミナーが始まりましたので、文字起こしの経験を活かし講師のお話を紙面でお伝えすることができます。今回講師は4名でしたが本号は1名分で7ページになりました。他の講師分は次号以降に掲載させていただきますので、お楽しみにお待ちください。(m.niki)

特定非営利活動法人 精神保健福祉交流促進協会 TEL070-8438-0688